

2018 年度

国 語
(1期)

(答はすべて解答用紙に記入すること)

(時 間 45分)

番 号	氏 名
--------	--------

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

私は、25年ほど前から、科学を踏まえながら生命の歴史性に注目する知を提唱しています。今日はその「生命誌」という新しい知の基本となる考え方についてお話しします。

20世紀は、科学とそれに基づく科学技術がひじょうに発達した時代でした。しかし、残念なことに、20世紀の後半は「とにかく産業(経済)を盛んにしよう」という考えが強くなり、産業に役立つ科学技術だけを素晴らしいものだと思いついてしまったのです。

知識を得るといふより、みんなが健康になるため、さらに産業を興してお金儲けをするため……そういうことのためだけに科学はあると捉えられたのです。科学に関する書籍やテレビ番組なども「こんな役に立つ」「こんなに健康にいいことがある」という視点のものが多いいのです。

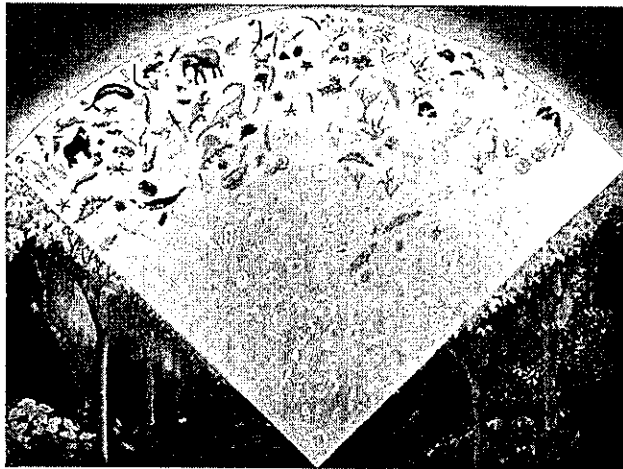
もちろんそれは大事なことで、全否定するつもりはありません。ただ人間の役に立つとか健康のためと考えると、どうしても「答え」が必要になります。「こうすれば健康に暮らせます」、「こうすれば経済活動を活発にできます」という答えを出すただに科学があるのではないと私は考えています。

【ア】たとえば、2011年3月11日に起きた東日本大震災では、地震による大津波が沿岸部を襲い、それがきっかけとなって福島第一原子力発電所の事故が起きました。今もなお放射能は拡散しています。しかし、私たちは放射能が与える人間への影響について答えを持っていません。現在放出しているレベルの放射能によって人間の身体に何年経つとどのようなことができるのか、実を言うとまだ誰も知らないのです。

【イ】現実には起きていることには対応しなければなりません。でも答えを科学だけに求めるとどうしたらいいのかわからなくなり、政府も自治体も右往左往することになります。最先端の科学技術を持っているといわれる日本ですが、考えなければならぬことがあります。

【ウ】すべてのものには答えがあるから、それに沿って行動すればいいと私たちは思い込んでいましたが、そうではなかった。本来、科学とは「自然はどういうものなんだろう」「宇宙ってなんだろう」「地球とはいったいなか」「生き物や人間はどうして生きてるんだろう」ということを考えるもの。そうして考えていけば、科学は各自の世界観をつくってくれはるはずなのです。

【エ】「考える」ことが重要なのです。答えはもちろん大事であり、考えて考えて考え抜けば答えは出てきます。しかし、一つの答えが出て



〔生命誌絵巻〕JT生命誌研究館

くると、もっと難しくてもおもしろい問いが必ず生まれてくる。「答えを見つけたらオシマイ」ではなく、ずっと考えつづけること。これがとても大切なのです。

では、私たちはこれからどんな世界観を持てばいいのでしょうか。

過去を振り返ると、科学は17世紀以降の300年間にわたり「機械論的世界観」^①を有していました。簡単にいうと「宇宙や生命、人間をすべて機械と考えて調べればいいのだ」という世界観です。ガリレイは「自然は数字で書かれた書物」、ベーコンは「自然の操作的支配」、デカルトは「機械論的非人間化」、ニュートンは「粒子論的機械論」という言葉や考え方を出しました。

(A)、分子生物学でDNAやたんぱく質の動きを調べてみると、生物も機械のように動いていることがわかります。(B)、人間を含む生きものは機械かと問われれば、それは違います。(C)、従来の科学技術を生み出すための答えを求めると、機械として考えた方が効率が

よかったです。

(D)、最近の研究で「世界を機械として考える」という従来の思考では自然を捉えきれないことがわかりました。(中略)

ここで「生命誌絵巻」を見て下さい。これは生命誌の基本となる考え方を示しています。

(I) 生きものが長い時間のなかで誕生してきた様子を表しています。

⑤ ^① 扇形の要の部分^②が最初に生まれた生命体です。扇の天^③が現在、バクテリア、ミドリムシ、プランリア(ウズムシ)、ヒマワリ、チョウ、クジラ、そしてヒトもいますね。地球上には、名前が付いている生きものだけで170万種が生息しています。しかし、ほんとうは熱帯雨林を中心に数千万種いるはずだと考えられています。まだ名前が付いていない、あるいは発見されていない生きものがたくさんいるからです。

まだ(II) ことの多い生きものですが、一つだけはっきりわかっていることがあります。ど

ここに棲んでいても、どんな姿かたちをしていても、生きものはみな細胞から成り、細胞のなかにはDNAが入っているということです。

ここから地球上にいるすべての生きものの祖先は、ある一つの細胞と考えられます。扇の要の部分、地球で生まれた最初の生命体が現在の生きもの共通の祖先なのです。今から38億年前の地球には細胞があったことは化石によって確認されています。

海の中で生まれた細胞が「進化」をし、多細胞化して植物や動物になり、動物の中で骨がたちづくられて魚になった仲間から陸に上がって両生類、は虫類、鳥類、哺乳類となり、そして人間になった。昆虫の仲間も大事ですね。このように生きものは、みんな共通の祖先を持っているのです。校庭を歩いているアリも、38億年前からずっと続いてきて今の姿になった。皆さんのお腹の中にもいるバクテリアも、もとをたどれば38億年前に遡ることが出来ます。

つまり、皆さんも含めて地球上の生きものは、体のなかに38億年の歴史を持っているのです。皆さんの細胞の中にあるDNAは、父親と母親から半分ずつ受け継いでいますね。では、お父さん、お母さんを考えてみると、おじいさん、おばあさんから受け継いでいるはず。そうしてたどっていくと、誰もが人類の祖先に遡るわけです。さらにDNAを解析していえば、人類の祖先からもっと遡ることができて、最終的には38億年前の最初の生命に戻ります。

38億年という途方もない時間が自分の体内に残されているという事実を知ると、生きていくことの重みを感じませんか。「生命誌絵巻」を見ると、生きものはずっと繁栄しつづけてきたように思うかもしれませんが、実は何度も絶滅に近い危機を乗り越えてきています。およそ5億年前に生きものが上陸してから、すくなくとも5回、70〜90%もの種が消えるという体験をしています。

宇宙の始まりからこれまでをざっと見てきました。時間をかけてできあがってきた自然界は生きもののおようだと思いますか。この考え方を「生命論的世界観」と言います。300年もの間、科学は「a」で進められてきましたが、どうも「b」の方が実態に合っていると考えられるようになってきたのです。

「生命誌絵巻」では、人間は扇のなかに含まれています。しかし、ペーコンが「自然の操作的支配」と言ったように、現在の科学技術は人間が扇の外側に存在するという考えの下に作られています。「人間は生きものであり、自然の一部である」というあたりまえのことが「生命論的世界観」のいちばん大切な部分です。これからの科学は、「生命論的世界観」がベースになります。

私は日常生活でも「c」が大事だと思っています。東日本大震災後の政治家、学者、評論家の発言より、農業、漁業、林業など第一次

産業に従事して、常に自然を相手に生きてきた人々の言葉がとても魅力的でした。

例えば「津波で田んぼも畑もダメになったし、家もなくなってしまった。けれど、私はこれからここでもう一度ものをつくっていく」「知恵と技術」は持っている。それは誰にも流せなかった」と言っていた農家の人がいました。とても印象的な発言でしたが、これは「人間は自然の一部である」と理解している人の強さなのだと思います。

「人間が自然の一部」というのは当たり前のことです。けれど、「d」に基づいてつくり上げていた科学技術中心の社会は、お金や利便性のみを追求したせいで、自然との向き合い方を忘れてしまった。行き詰まりつつあるこの社会をつくり変えるためにも、「人間は生きものであり、自然の一部である」ということを、すべての起点として考えることが重要です。

(桐光学園+ちくまプリマー新書編集部編『科学は未来をひらく』)

中村桂子著「私のなかにある38億年の歴史——生命論的世界観で考える」より一部改変)

(注1) DNA……ほぼ全ての生物の細胞に存在する、遺伝の特徴を伝える本体。

(注2) 扇の天……扇の上の方。

問一 ——線①「それ」とは何を指していますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生命の歴史性
- イ 新しい知の基本
- ウ 産業に役立つ科学技術
- エ 科学に関する書籍やテレビ番組
- オ 最先端の科学技術

問二——線②「答えを出すためにだけに科学がある」とありますが、ここで示されている考えと対照的なのはどのような科学に対する姿勢ですか。「姿勢」につながるように、本文中から九字でぬき出しなさい。

問三 本文には、次の文がぬけ落ちています。元に戻すとき、「ア」「エ」のどこに入れるのがもっともふさわしいですか。一つ選び、記号で答えなさい。

このような現状を見ると、今まで欠けていたものが見えてきます。

問四——線③「東日本大震災」とありますが、この例はどのようなことか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 全てのものには答えがあり、それに従えばいいという考えがうまくいかなかった例。

イ 現実に行き起きていることに対応するために、答えを科学だけに求めていった例。

ウ 科学を踏まえながら生命の歴史性に注目する知を提唱していった例。

エ 一つの答えが出てくると、もっと難しく、おもしろい問いが必ず生まれてくるという例。

オ 考えていくことで科学が各自の世界観をつくってくれるという例。

問五 (A) (D) には、どのような言葉が入りますか。次の中からもっともふさわしい組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

ア (A) もちろん (B) なぜなら (C) つまり (D) だから

イ (A) もちろん (B) でも (C) もちろん (D) しかし

ウ (A) たしかに (B) でも (C) しかし (D) ところが

エ (A) たしかに (B) しかし (C) でも (D) そのため

オ (A) つまり (B) しかし (C) でも (D) ところが

問六 — 線⑤「扇形^{せんがた}の要の部分^{ようのぶぶん}が最初に生まれた生命体^{せいめいたい}です」とありますが、「最初に生まれた生命体」が、なぜ「扇の要の部分」とたとえられていると考えられますか。次の文章の にあてはまるように、本文中から十二字でぬき出しなさい。
最初に生まれた生命体は だから。

問七 (I)・(II) には、どのような言葉が入りますか。次の中からもっともふさわしい組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|------------|-----------|
| ア (I) さまざま | (II) 未熟な |
| イ (I) 小さな | (II) 不明な |
| ウ (I) わずかな | (II) 奇妙な |
| エ (I) ばく大な | (II) 野性的な |
| オ (I) 多様な | (II) 不確かな |

問八 — 線⑥「もとをたどれば38億年前^{さんじゅうはちおくねん}に遡^{さかのぼ}ることができます」とありますが、なぜそう言えるのですか。次の中からの理由としてふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生きものはみな細胞から成り、細胞のなかにはDNAが入っているから。
- イ 今から38億年前の地球には細胞があったことが化石によって確認されているから。
- ウ 自分が両親から受け継いだDNAは、両親も親たちから受け継いできているから。
- エ 地球上にいるすべての生きものの祖先は、ある一つの細胞と考えられるから。
- オ 「生命誌絵巻」では、人間は扇のなかに含まれているから。

問九 — 線④「機械論的世界観」・⑦「生命論的世界観」とありますが、「a」・「d」にはどちらの言葉が入りますか。「機械論的世界観」なら、「生命論的世界観」なら、それぞれ答えなさい。

問十

次のア～オの文について、本文から読み取ることができる内容として、合っているものには○と、合っていないものには×と、それぞれ答えなさい。(ただし、すべて同じ記号で答えてはいけません。)

ア 難しい科学技術の知識を理解できない人たちにも健康になってもらうため、科学技術がもたらしてくれる結果だけが尊重された。

イ 私たちは長い間「機械論的世界観」によって効率的に科学技術を生み出してきたつもりでいたが、実は「機械論的世界観」よりも「生命論的世界観」の方が、より効率的に科学技術を生み出せることがわかってきた。

ウ この世界に存在する生きものはすべて、DNAが入っている細胞からできており、そのDNAを解析すると最初の生命にまでたどりつくことができる。

エ 海の中で生まれた細胞が進化して多細胞化し、魚などになり、一方陸で生まれた細胞が進化して、骨などが形作られて動物や人間に進化した。

オ 「機械論的世界観」では、人間や宇宙や生命を「機械」であると考えてきたが、「生命論的世界観」では人間も自然の一部であると考えられる。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のあるものについては、すべて句読点や記号をふくみます。)

最初は旗だと思った。国旗のような長方形の旗ではなく、^①三角形のペナントが何枚か並んで、団地の一室のベランダに掲げられている。

少年は自転車に乗っていた。町の探検の途中だった。三月の終わりに引越してきて、まだ一カ月足らず——通学路からはずれたこの団地に来たのは、初めてだった。

自転車を停めると、見上げると、なあんだ、と苦笑いが浮かんだ。旗ではなかった。竿をフェンスに掛けた、小さなこいのぼりだった。

部屋は三階だった。ベランダに干してある洗濯物の中に子供服はなかったが、こいのぼりを揚げるのは(X)のいる家なんだということは、少年も知っている。

三年生か四年生の子だったらいいな、男の子がたまたまベランダに出てくる、たまたま少年に気づく、少年が「よお」と手を挙げて笑うと、男の子も笑い返す、そして二人はなんとなく仲良くなって……そんな情景を思い浮かべながら、少年は自転車を停めたまま、こいのぼりを見つめた。風が強い。こいのぼりはしっぽまで伸びて、(A)音をたてて泳いでいる。小さなこいのぼりだ。竿も細くて短く、一尾くらいなら片手に持つて振り回すこともできそうだった。

風は少年にも吹きつける。埃っぽい風だ。団地の周囲に広がる畑の土が巻き上げられているのだろう、ときどき頬に小さな土のかけらが当たる。頬が(B)するたびに、目を細め、自転車のハンドルを強く握り直して、肩をすぼめた。

町の探検をするときには、いつも一人で自転車をとばす。おかあさんは知らない。少年は学校から帰るとすぐに「遊びに行ってください」とはずんだ声で言って家を出て、町をあてもなく自転車で巡って、夕方五時のチャイムが鳴るまで時間をつぶしてから、「ただいまーっ」とはずんだ声で家に帰る。

初めての転校だった。新しい友だちとどうなじんでいけばいいのかよくわからなかったから、しくじった。最初はよかったのだ。クラスみんなは休み時間のたびに少年のまわりに集まって、前の学校のことをあれこれ訊いてきた。すっかり人気者だ——と、勘違いしてしまった。気がゆるんだ。質問に答えるだけでなく、なにか面白いことを言ってみて、みんなを笑わせてやろうと思った。前の学校や町のことを少し大きに話した。この学校やこの町の感想も、ギャグのネタになるようにしゃべった。すると、それが「いばってる」「ここを田舎だと思ってバカにしてる」とい

うことになってしまった。笑ってくれるはずのみんなは怒りだした。誰も少年の席には集まらなくなり、放課後のソフトボールにも誘ってくれなくなった。

「そんなに前の学校がいいんだったら、帰れよ、そっちに」——今日、聞こえよがしに言われた。言ったのは、少年の話に真っ先に腹を立てたヨッちゃんだった。

男子のリーダー格のヨッちゃんは、好きなテレビやゲームやマンガがどれも少年と同じで、おしゃべりをするときのテンポやノリもぴったりで、クラスでいちばん仲良くなれるはずだった。親友になれたらいいな、きつとなれるだろうな、と楽しみにしていた一週間前までが、いまは、ずっと昔のことのように思える。

知らないうちにうつむいてしまっていた。顔を上げ、こいのぼりをもう一度見つめて、まあいいや、とため息をついて自転車のペダルを踏み込みかけたとき、こいのぼりが一尾、空に泳ぎ出た。(C) 開けた口と竿を結んでいた紐が、ほどけたか、ちぎれたか、黒い真鯉が竿からはずれてしまい、風に乗って飛んでいったのだ。

少年はあわてて追いかけた。畑の真ん中に(D) 落ちたのを確かめると、自転車を乗り捨てて、ごめんなさいごめんなさいしようがないんです、と謝りながら畑に入った。

団地の建物は古く、オートロックどころかエレベーターもなかった。陽のほとんど射さない階段はひんやりとして、カビと埃の入り交じったにおいがした。

竿のあるベランダの位置を外から確認し、廊下に並ぶドアの数と照らし合わせて、奥から二軒目のドアのチャイムを鳴らした。

中から顔を出したのは、おばさんだった。少年のお母さんと変わらない年恰好で、お母さんよりきれいで、そのかわり、お母さんより寂しそうに見えた。

こいのぼりが飛んでいったことを説明して、拾ってきたこいのぼりを差し出すと、おばさんはとても——少年が予想していたよりもずっと喜んで、感謝してくれた。

「ちよっと待っててね、お菓子あるから、持って帰って」

玄関の中に招き入れられた。おばさんは玄関とひとつづきになった台所の戸棚を開けながら、「何年生？」と訊いた。

「五年、です」

「……東小学校の子？」

⑥ げげんそくに訊かれた。

少年がうなずいて、「転校してきたばかりだけど」と付け加えると、おばさんは、ああそうなの、と笑った。固まっていたものがふっとゆるんだような笑顔だった。

「ねえ、ボク、上がっていきなさい。おみやげのお菓子はあとであげるから、おやつ食べていけば？」

知らないひとの家に上がるのはよくない。お母さんにいつも言われている。

でも、五時のチャイムまではまだ時間があるし、断るとおばさんはまた寂しそうな顔で固まってしまいそうだし、なにより、少年は気づいていた。台所の奥の居間に男の子の写真が飾ってある。大きく引き伸ばした写真をきちんとした額に入れて、鴨居に立てかけて——田舎のおじいちゃんの家では、死んだひいおじいちゃんといひおばあちゃんの写真をそうしている。そして、部屋にしみついているにおいは、おじいちゃんの家でいつも嗅いでいるのと同じ……たぶん……きつと……。

うつむいて靴を脱ぐ少年に、おばさんは言った。

「せっかくだから、お仏壇にお線香をあげてくれる？」

おばさんの息子は、タケシくんという。三年生の秋、交通事故で亡くなった。生きていれば東小学校の五年生——少年と同じ五年二組だったかもしれない。仏壇に供えられた趣合金ロボヤトレーディングカードは少年の好きなものと一緒だったから、仲良しの友だちになれた、かもしれない。

おばさんは東小学校のことをあれこれ教えてくれた。髪の毛の薄い校長先生のあだ名が「はげつち」だということ、秋の運動会に親子競技があること、冬になるとクラスでストープ委員を決めること、学校のプールは真ん中が深くなっていて背が立たないかもしれない、ということ……。ヨッチちゃんの名前が出た。胸がどきんとした。タケシくんのいちばんの友だちはヨッチちゃんだったらしい。

「ヨッチちゃんと同じクラスなの？　じゃあ、もう友だちになったでしょ。あの子元氣だし、面白いし、意外と親切なところもあるから」
タケシくんが小学校に上がって最初に仲良くなったのがヨッチちゃん、最後まで——いまでもヨッチちゃんは、ときどき仏壇にお線香をあげに来
てくれるのだという。

「ヨッチちゃん、いろいろ面倒見てくれるから、すぐに友だちになれたでしょ」

少年は黙つてうなずいた。一週間前までは、確かにそうだった。通学路の近道も、学校でいちばん冷たい水が出る水飲み場の場所も、教室を掃
除するときの手順も、ぜんぶヨッチちゃんに教わった。

「そうかあ、ヨッチちゃんと友だちかあ……」

おばさんはうれしそうに微笑んで、しみじみとつぶやくように言った。勘違い——でも、そんなの、打ち消すことなんてできない。

「じゃあ、タケシとも友だちってことだね」

おばさんはもつとうれしそうに言った。

少年がしかたなく「はあ……」と応えると、玄関のチャイムが鳴った。

外からドアが開く。

「おばちゃん！　こいのぼり、黒いのがなくなってる！　飛んでったんじゃないの！」

玄関に駆け込んできたのは、ヨッチちゃんだった。

五時のチャイムが鳴るまで、少年はヨッチちゃんと一緒にタケシくんの家にいた。おばさんに「やろう、やろう」と誘われて、三人でテレビゲ
ムをした。タケシくんの家にあつたゲームはみな、少年も三年生の頃に遊んだものだった。タケシくんが生きてれば友だちになったよな、絶対そ
うだよな、と少年は思う。去年発売されたシリーズの新作はもつと面白い。タケシくんが生きてれば絶対にハマつただろうな。

ヨッチちゃんはゲームがうまかつた。少年といい勝負——勝ったり負けたりを繰り返す二人を、「ひさしぶりにゲームすると、指と目が疲れちゃ
うねえ」と途中から見物に回つたおばさんは、にこにこ微笑んで見つめていた。

ヨッチちゃんと仲直りをしたわけではない。ヨッチちゃんは家に入って少年を見たとき、一瞬、なんでおまえなんかがここにいるんだよ、という顔

をした。少年も、しょうがないだろ、とにらみ返して、そっぽを向いた。

おばさんがジュースのお代わりを取りに台所に立ったとき、「さっさと帰れよ」とヨッチちゃんに小声で言われ、肩を小突かれた。

少年も最初はそうするつもりだった。おばさんに嘘がばれるのが嫌だったし、嘘をついたままタケシくんの写真に見つめられて遊ぶ自分が、もっと嫌だった。

でも、おばさんはジュースを持って戻ってくると、二人に言った。

「タケシも喜んでるわよ、ヨッチちゃんに新しいお友だちができて」

帰れなくなった。頬が急に熱くなり、赤くなって、そこからは今まで以上にゲームに夢中になったふりをした。ヨッチちゃんも、ゲームのコントローラーを動かしながら、ときどき、テレビの画面を見つめたまま話しかけてくるようになった。そんな二人を、おばさんはずっと——ほんとうにずうっと、にこにことうれしそうに見つめていた。

先に「さようなら」と言った少年が団地の建物の外に出ても、ヨッチちゃんはなかなか出てこなかった。放っておいて帰るつもりで自転車にまたがったが、このまま帰ってしまうのも、なんとなく嫌だった。困ったなあと思ってタケシくんの家のベランダを見上げていたら、窓が開いて、おばさんがベランダに顔を出した。少年に気づくと「ちよっと待っててね」と笑って声をかけ、フェンスからこいのぼりの竿をはずした。

しばらくたって外に出てきたヨッチちゃんは、真鯉だけをつないだ竿を持っていた。

「すぐ帰らないとヤバイ？」

少年に顔を向けずに訊いた。

「べつに……いいけど」

「片手ハンドル、できる？」

「自転車の？」

簡単だよ、そんなの、と笑った。道が平らだったら両手を離しても滑げる。

ヨッチちゃんはこのほりを少年に渡した。

「おまえに持たせてやる」

「……どうするの？」

「ついて来いよ。タケシのこいのぼり、びんとなるように持ってろよ」

そう言っで、自分の自転車のペダルを勢よく踏み込んだ。

少年はあわてて追いかける。風を呑み込んだこいのぼりは、尾びれまでびんと張って泳ぎはじめた。意外と重い。しっかりと竿を握っていないと、飛んでいってしまいそうだ。

ヨッチちゃんの自転車は団地を抜けて、細い道を何度も曲がっていく。片手ハンドルの運転ではなかなかスピードを上げられない。ヨッチちゃんも途中でブレーキをかけたたり自転車を停めたりして、少年を待ってくれた。「かわってやろうか」と言われて、「ぜんぜん平気だよ」と応えると、ふうん、と笑われた。いままでとは違う——転校したての頃とも違う笑い方だった。タケシくんと一緒だった頃もこんなふうに笑っていたのかもしれない。そう思うと、急にうれしくなり、でも急に悲しくもなつて、竿をぎゅつと強く握りしめた。

河原に出た。空も、川も、土手も、遠くの山も、夕焼けに赤く染まっていた。

ヨッチちゃんは土手のサイクリングロードに出ると自転車を停め、少年からこいのぼりを受け取った。

「俺ら……友だちなんだって？」

少年は、ごめん、とうつぶいた。おばさんが勝手に勘違いしただけだ、とは言いたくなかった。

「べつにいいけど」

ヨッチちゃんはまたさっきのように笑つて、手に持った竿を振つてこいのぼりを泳がせた。

「タケシつて……すげえいい奴だったの。サイコーだった。俺、いまでも親友だから」

「……うん」

「でも……おばさん、もう来るなつて。ヨッチちゃんは新しい友だちをどんどんつくりなさい、つて……そんなのやだよなあ、関係ないよなあ、俺が友だちつくるのとかつくくんないのとか、自分の勝手だよなあ……」

ヨッチちゃんは、悔しそうに竿を振り回す。こいのぼりは身をくねらせ、ばさばさと音をたてて泳ぐ。

「こいのぼり、ペランダからだど、川が見えないんだ。俺らいつも河原で遊んでたから、見せてやろうかな、って」

へへっと笑うヨッチちゃんを、少年はじっと見つめた。ヨッチちゃんはそのまなざしに気づくと、ちよつと怒った顔になって、「拾ってくれてサンキュー」と言った。

少年は黙って、首を横に振った。

「あそこの橋渡って、ぐるーっと回って、向こうの橋を渡って帰るから」

向こう岸を指さして言ったヨッチちゃんは、行こうぜ、とペダルを踏み込んだ。

ハンドルが揺れる。自転車が道幅いっぱいには蛇行する。片手ハンドルで自転車を漕ぐのは、あまり得意ではなさそうだ。

少年はヨッチちゃんの自転車に並んで、手を差し伸べた。「持ってやろうか」と声をかけると、ヨッチちゃんは少し間をおいて「悪い」と竿を渡した。「べつにいいよ」と竿を受け取ったあと、ほんとうはもつと別の言葉を言わなきゃいけないかったのかもな、と思った。でも、そういうのって、いいんだよ、もう、と竿を持った右手を高く掲げた。

こいのぼりが泳ぐ。金色にふちどられたウロコが、夕陽を浴びてきらきらと光る。

ヨッチちゃんの自転車が前に出た。少年は友だちを追いかける。右手で友だちの友だちを握りしめる。振り向いたヨッチちゃんが、「転ぶなよ」と笑った。

（重松清著『小学五年生』より一部改変）

問一 ――線①「三角形のペナント」とありますが、少年がいう「三角形のペナント」とは何ですか。本文中から五字でぬき出して答えなさい。

問二 (X) にあてはまる言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

問三 (A) (D) には、どのような言葉が入りますか。次の中からもつともふさわしい組み合わせを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア (A) ばたばたと (B) ぴりっと (C) おずおずと (D) ふわりと
イ (A) ばさばさと (B) ひやっと (C) あんぐりと (D) どざりと
ウ (A) ばさばさと (B) ひやっと (C) ひっそりと (D) ふわりと
エ (A) ひらひらと (B) ぴりっと (C) ぎゅっと (D) どざりと
オ (A) ばたばたと (B) ぴりっと (C) ぼかんと (D) ふわりと

問四 —線②・③「はずんだ声」とありますが、少年はなぜ「はずんだ声」で家を出て、「はずんだ声」で家に帰ってくるのだと考えられますか。

次の中からもつともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 町を探検して見つけた秘密の場所を誰かに教えれば、なじめていない友だちと話すきっかけになるのではないかと期待したから。
イ 新しい学校で友だちとなじめていないことを心配している母を、これ以上不安にさせないようにわざと明るく様子演技しているから。
ウ 最初の予定とは違い、新しい学校での生活がうまくいかなかったことに不安を感じている自分を、なんとかはげまそうとしているから。
エ 新しい学校で友だちができないことを母に知られると恥ずかしく、また心配させるのではないかと思い、わざと明るくふるまっているから。
オ 一人でもきちんと行動できるところを見せて、引越してきた場所でうまくやっていけるかと心配している母を安心させたかったから。

問五 — 線④「しくじった」とありますが、少年はなぜ「しくじった」のですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新しい学校に最初はなかなかなじめなかったで、なんとかみんなの気を引こうと大きな話をしてしまい、嫌われてしまったから。
イ 前の学校や町のことを大げさに話したらみんなが面白がってくれて調子にのってしまい、できたばかりの友だちにいばってしまっただから。

ウ 新しい学校でみんなが話しかけてくるのを自分に人気があるからだと思い、調子にのって大きなことを言っただけ嫌われてしまったから。

エ 転校生の自分に対してみんながいろいろな質問をしてきてくれたのにきちんと答えられず、友だちをがっかりさせてしまったから。

オ 自分の経験をふまえた話を友だちが面白がってくれたことに油断をして、今の学校や町をバカにしても平気だと思ってしまったから。

問六 — 線⑤「聞こえよがしに」の意味はどれですか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手にうっかり聞こえないように

イ 相手にわざわざ聞こえるように

ウ 相手が答えなくてもいいというように

エ 相手をしっかりと説得するように

オ 相手にきつぱりと反論されないように

問七 — 線⑥「けげんそうに訊かれた」とありますが、このとき「おぼさん」はどのような心情だったと考えられますか。本文の内容をふまえて説明しなさい。

問八

——線⑦「そんなの、打ち消すことなんてできない」とありますが、なぜ少年は「打ち消すことなんてできない」と感じたと考えられますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誰とでも仲良くなれるヨッチャンとくまういかなかった自分が惜げなくなるし、おばさんの喜びを壊したくなかったから。

イ おばさんが勘違いしたことだとはいえ、ヨッチャンと親友だと言われたことが今の自分にとってはうれしかったから。

ウ ヨッチャンと親友ではないとおばさんに伝えてしまうと、それを聞いたヨッチャンにさらに嫌われると思ったから。

エ 亡くなった自分の息子にそっくりな少年が、ヨッチャンと親友だという偶然を喜んでおばさんをつかりさせたくなかったから。

オ ヨッチャンに対していい印象をもっているおばさんに対して、ヨッチャンのことを悪く言うのは申しわけないと思ったから。

問九

——線⑧「テレビの画面を見つめたまま話しかけてくるようになった」とありますが、このときのヨッチャンの心情としてふさわしくないものはどれですか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少年を許したわけではないが、タケシくんが生きていたときのように遊ぶ自分と彼をうれしそうに眺めるおばさんを悲しませたくはない。

イ 亡くなった親友のタケシと同じように遊ぶ少年を見て、少年とタケシが重なりあい、だんだんと少年を許せるようになってきた。

ウ 二人が親友であることをおばさんが喜んでいるので、おばさんをつかりさせないようにふるまう少年を認めはじめてきている。

エ 少年がおばさんの前で、自分たちが親友のようにふるまっていることで、自分もそれに合わせておかなければいけない。

オ 偶然にもおばさんの家で長い時間を一緒に過ごしていくうちに、少年との距離が自然と縮まってきている。

問十

——線⑨「ヨッチャンはなかなか出てこなかった」とありますが、このときおばさんは二人きりでヨッチャンにどのようなことを伝えたと考えられますか。本文の言葉を使って二十五字以上三十五字以内で答えなさい。

問十一——線⑩「そう思うと、急にうれしくなり、でも急に悲しくもなつて、筆をぎゅつと強く握りしめた」とありますが、このとき少年はど

のような心情だったと考えられますか。次の中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ヨッちゃんにタケシくんと同じような友だちと認められてうれしかったが、そのタケシくんが亡くなってしまつてもういないと思うと悲しくもなつた。

イ ヨッちゃんがこれまでと違い自分を友だちと認めてくれてうれしかったが、このような態度をタケシくんにもとっていたのかと思うと悲しくもなつた。

ウ ヨッちゃんが自分に対してタケシくんと同じように扱あつかってくれたとうれしくなつたが、簡単にかつての親友を忘れるヨッちゃんの姿をみて悲しくもなつた。

エ ヨッちゃんと仲直りができてうれしかったが、ヨッちゃんがこんな風に笑いかけていたタケシくんの代わりにほなれないと思つて悲しくもなつた。

オ ヨッちゃんが自分をタケシくんと同じような友だちだと認めてくれてうれしかったが、結局は亡くなつたタケシくんの代わりにすぎないのかと悲しくもなつた。

問十二——線⑪・⑫「友だち」は、誰のことを指していますか。それぞれ本文中からぬき出して答えなさい。

〔三〕

次の――線部について、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ直しなさい。

- ① 車がハソンする。
- ② 委員にリッコウホする。
- ③ コウバイが咲く。
- ④ 人工エイセイを打ち上げる。
- ⑤ 時間をツイやす。
- ⑥ 格子戸を開ける。
- ⑦ 大雨で河川がはん乱する。